



人権に関する市民意識調査報告書

～ 各設問における主な特徴について ～

（ 概 要 版 ）

令和 2 年 2 月

四 條 畷 市



はじめに

四條畷市では、市民の人権意識を把握し、的確な人権施策を実施するため、定期的に人権に関する意識調査を実施しています。

本資料は、平成30年度(平成31年1月)に実施した調査の集計結果より、各設問における主な特徴をまとめたものです。

目次

調査設計について	1
回答者の属性について	2
集計結果から分かる主な特徴	
テーマ1 『人権全般について』	3
テーマ2 『女性の人権について』	4
テーマ3 『子どもの人権について』	5
テーマ4 『高齢者の人権について』	6
テーマ5 『障がいのある人の人権』	7
テーマ6 『部落差別に関する問題』	8
テーマ7 『外国人住民の人権について』	11
テーマ8 『エイズ患者・HIV感染者およびハンセン病回復者の人権について』	12
テーマ9 『犯罪被害者及びその家族の人権について』	12
テーマ10 『インターネットやSNSを用いた人権侵害について』	13
テーマ11 『性的マイノリティの人権について』	13
テーマ12 『人権に関する講演会やイベント等への参加について』	14
テーマ13 『人権課題解決のために』	15

調査設計について

1. 調査の目的

市民の人権についての意識やさまざまな場面での差別・人権侵害についての考え方を把握し、私たちのまわりに存在するさまざまな人権問題などに対し、的確に対応する人権施策を推進するための基礎資料として活用することを目的に実施しました。

2. 調査設計

調査地域	四條畷市全域
調査対象	満18歳以上の男女(平成31年1月1日時点)
調査対象者数	2,000人
調査対象者抽出法	住民基本台帳データから無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成31年1月28日～平成31年2月28日

3. 回収結果

有効回収数	658人
有効調査数	1,985人
回収率	33.1%

4. 前回の調査について(参考)

調査地域	四條畷市全域
調査対象	満20歳以上の男女(平成25年2月1日時点)
調査対象者数	2,000人
調査対象者抽出法	住民基本台帳データから無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成25年2月25日～平成25年3月21日
有効回収数	721人
回収率	36.1%

回答者の属性について

より効果的な集計を実施するため、調査では属性についても確認しました。
今回の調査における回答者の属性は次のようになりました。

● 性別について

	回答	人数	%	前回 (%)
性別	男	254	38.6%	54.5%
	女	344	52.3%	43.0%
	その他	1	0.2%	選択肢なし
	答えたくない	7	1.1%	選択肢なし
	無回答	52	7.9%	2.5%
	合計	658		

※ 割合(%)の合計は、端数処理の関係で100%になりません。

● 年齢について

	回答	人数	%	前回 (%)
年齢	18歳～19歳	7	1.1%	選択肢なし
	20歳～29歳	44	6.7%	6.7%
	30歳～39歳	62	9.4%	12.2%
	40歳～49歳	115	17.5%	18.7%
	50歳～59歳	90	13.7%	12.3%
	60歳～69歳	101	15.3%	24.8%
	70歳～79歳	131	19.9%	23.9%
	80歳以上	56	8.5%	選択肢なし
	無回答	52	7.9%	1.4%
	合計	658		

● 職業について

	回答	人数	%	前回 (%)
職業	自営業	32	4.9%	8.2%
	会社員・団体職員(パート、アルバイト、派遣社員等含む)	233	35.4%	28.0%
	公務員	28	4.3%	2.2%
	生徒・学生	20	3.0%	2.2%
	その他	21	3.2%	16.5%
	無職	271	41.2%	40.6%
	無回答	53	8.1%	2.2%
	合計	658		

※ 割合(%)の合計は、端数処理の関係で100%になりません。

集計結果から分かる主な特徴

テーマ1: 人権全般について

【問1】 現在の、日本の社会には人権にかかわる様々な問題がありますが、あなたが特に関心のあるものはどれですか。(複数回答可)

《設問の主旨》

この設問では、様々な人権課題の中で、市民の関心が高い事項を確認しました。

《主な特徴》

- いじめや、インターネット・SNS を悪用した人権侵害について関心が高く、特にインターネット・SNS を悪用した人権侵害については、前回調査と比較して10%以上高くなりました。
- 年齢を基準とした集計結果より、性的マイノリティに関する問題については、10代から20代の関心が高いことがわかりました。

【問2】 人権について、いろいろな考え方があります。

次の4つの問いについて、あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。

【問2-1】 あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある。

【問2-2】 差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だ。

【問2-3】 人権問題とは、差別を受けている人の問題であって、特に関心がない。

【問2-4】 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある。

《設問の主旨および主な特徴》

- 【問2-1】は、差別を解決するにあたり、行政の関与が必要と考えるかどうかを確認する設問です。「そう思う」または、「どちらかと言えばそう思う」の回答が90%以上にのぼることがわかりました。
- 【問2-2】は、差別禁止法の必要性についての設問です。「そう思う」または、「どちらかと言えばそう思う」の回答が60%を超える結果となりました。
また、前回調査と比較して「そう思う」の回答率が10%以上高くなりました。
- 【問2-3】は、人権問題への関心度合いを確認する設問です。「あまりそう思わない」または「そう思わない」を選択した回答者が80%を超える結果となりました。
- 【問2-4】は、差別はされる側にも問題があるとする、差別自己責任論に関する設問です。「あまりそう思わない」または「そう思わない」との回答が60%以上となりました。
また、年齢を基準とした集計結果より、70歳以上が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答する比率が高いことがわかりました。

【問3】 あなたは今まで、自分が差別を受けたと感じたことはありますか。
(ある・ない・わからない で回答)

【問3-1】 問3で「ある」を選ばれた方におうかがいします。それはどのような人権侵害でしたか。(複数回答可)

【問3-2】 問3で「ある」を選ばれた方におうかがいします。それはどのような理由によるものでしたか。(複数回答可)

【問3-3】 問3で「ある」を選ばれた方におうかがいします。差別を受けたとき、あなたはどうかされましたか。(複数回答可)

《設問の主旨および主な特徴》

- 【問3】の設問では、約20%の人が人権侵害を受けたと感じる経験をしていることがわかりました。また、性別を基準とした集計結果より男女で比較した場合、女性の方がより高い比率で人権侵害を経験していることがわかりました。
- 【問3-1】は、経験した人権侵害の内容についての設問です。地域や学校職場でのトラブルや、うわさや悪口、パワーハラスメントが回答の上位となりました。
- 【問3-2】は、経験した人権侵害の理由についての設問です。容姿や身なり、学歴・出身校、職業の選択肢が回答上位となりました。
- 【問3-3】は、人権侵害を経験した時の対応についての設問です。「何もしなかった」という回答が最も多く、約45%の回答率となりました。他には、友人や家族などに相談するといった回答や、自分で解決したとの回答が上位となりました。

テーマ2: 女性の人権について

【問4】 女性の人権について、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。
(複数回答可)

《設問の主旨》

この設問では、女性に関する様々な人権課題の中で、市民の問題意識が高い事項を確認しました。

《主な特徴》

- 男女共同参画の仕組みが整っていないとの回答が最も多く、約50%の回答率となりました。他にも、性別による役割分担意識や、職場での待遇の違いについても40%以上の回答がありました。前回調査と比較した場合、男女共同参画の仕組みが整っていないことに対する回答率は10%以上高くなりました。
- 性別を基準とした集計結果より、男女共同参画の仕組みが整っていないことに対する回答率は、男女で比較した場合、女性の方が10%以上高いことがわかりました。

テーマ3:子どもの人権について

【問5】 子どもの人権について、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。
(複数回答可)

《設問の主旨》

この設問では、子どもに関する様々な人権課題の中で、市民の問題意識が高い事項を確認しました。

《主な特徴》

- 児童虐待についての回答が最も多く80%近い回答率となりました。他にも、子ども同士によるいじめの問題や、インターネットやSNSを用いたいじめなどに関する問題についても50%を超える回答率となりました。また、前回調査と比較した場合、インターネットやSNSを用いたいじめなどに関する問題の回答率が10%以上高くなりました
- 年齢を基準とした集計結果より、インターネットや SNS を用いたいじめなどに関する問題については、30代から40代の意識が特に高いことがわかりました。

【問6】 あなたの近くで、保護者・同居人から虐待を受けている疑いがある子どもがいることを知ったら、あなたはどのようにしますか。(単一回答)

《設問の主旨》

この設問では、児童虐待が疑われる事態を知った際の、市民の対応について確認しました。

《主な特徴》

- 公的機関に通報するとの回答が最も多く60%近い回答率となりました。一方で、「何をしてもいいかわからない」や、「誤解もあるから何もしない」という回答も、合わせると10%以上になりました。前回調査と比較した場合、公的機関に通報するとの回答率は10%以上上昇していました。

【問7】 四條畷市では、すべての子どもがその人権を侵害されることなく、その子らしく幸せに生きられることをめざし、「四條畷市子ども基本条例」を2016年につくりました。あなたはこの条例についてどの程度知っていますか。（単一回答）

《設問の主旨》

この設問では、2016年に制定した「四條畷市子ども基本条例」の認知度を確認しました。

《主な特徴》

- 「どんな内容か知っている」、「詳細は知らないがだいたい知っている」、「よくは知らないが言葉は聞いたことはある」を合わせると約33%の回答率となりました。
- 年齢を基準とした集計結果より、60代以上の認知度が高いことがわかりました。

テーマ4: 高齢者の人権について

【問8】 高齢者の人権について、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。（複数回答可）

《設問の主旨》

この設問では、高齢者に関する様々な人権課題の中で、市民の問題意識が高い事項を確認しました。

《主な特徴》

- 悪徳商法や詐欺被害の問題と、高齢者が暮らしやすいまちづくりになっていない問題についての回答率が40%を超えました。また、雇用の問題や、情報提供における配慮についても多くの回答がありました。
- 年齢を基準とした集計結果より、まちづくりの問題については、40代から70代の問題意識が高いことがわかりました。

【問9】 高齢者が道に迷っていたり、困っている様子であったとき、あなたはどうしますか。
(単一回答)

《設問の主旨》

この設問では、困っている高齢者に出会った際の、市民の対応について確認しました。

《主な特徴》

- 「声をかける」との回答が最も多く、約75%の回答率となりました。一方で、公的機関に連絡するとの回答は10%未満となりました。また、前回調査と比較した場合、「声をかける」の回答率は25%以上上昇していました。
- 年齢を基準とした集計結果より、「声をかける」という回答率は30代以上で高くなることがわかりました。また、10代から20代では、「何をしたいかわからない」との回答が20%を超えていました。

テーマ5:障がいのある人の人権

【問10】 障がいのある人の人権について、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(複数回答可)

《設問の主旨》

この設問では、障がいのある人に関する様々な人権課題の中で、市民の問題意識が高い事項を確認しました。

《主な特徴》

- 理解が十分でない事についての回答が最も多く、50%以上の回答率となりました。他にも、外出先での不便の問題や、偏見、就労上での不利などについても多くの回答がありました。
- 年齢を基準とした集計結果より、偏見についての回答は10代から30代の回答率が高いことがわかりました。

【問11】 障がいを理由とする差別の禁止や、障がいをもつ人への合理的な配慮を義務付けた法律「障害者差別解消法」が2016年に施行されました。あなたはこの法律についてどの程度知っていますか。（単一回答）

《設問の主旨》

この設問では、2016年に施行された「障害者差別解消法」の認知度を確認しました。

《主な特徴》

- 「どんな内容か知っている」、「詳細は知らないがだいたい知っている」、「よくは知らないが言葉は聞いたことはある」を合わせると約39%の回答率となりました。
- 年齢を基準とした集計結果より、10代および60代以上の認知度が比較的高いことがわかりました。

テーマ6: 部落差別に関する問題

【問12】 あなたが日本の社会において、同和問題や部落問題などと呼ばれている差別の問題があることをはじめて知ったのは、ということがきっかけですか。（単一回答）

《設問の主旨》

この設問では、市民が同和問題や、部落差別について知ったきっかけを確認しました。

《主な特徴》

- 「学校の授業で教わった」および、「父母や家族から聞いた」との回答が多く、ともに30%以上の回答率となりました。また、近所の人や友人、職場の人から聞いたという回答は合わせると13%となりました。
- 年齢を基準とした集計結果より、10代から50代では「学校の授業で教わった」が最も高い回答率であるのに対して、60代以上は「父母や家族から聞いた」が最も高い割合となりました。

【問13】 同和問題の解決に対するあなたの考えはどれに近いですか。
あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。（単一回答）

《設問の主旨》

この設問では、同和問題(部落差別に関する問題)の解消に対する市民考えを確認しました。

《主な特徴》

- 「わからない」との回答が最も多く、約35%の回答率となりました。続いて、「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせる」が29%、「そっとしておけば自然になくなる」が17%、「自分も解決に向けて、何らかの努力をする」が14%という結果となりました。
- 年齢を基準とした集計結果より、「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきに任せる」については10代から20代の回答率が高く、「そっとしておけば自然になくなる」については60代以上の回答率が高いということがわかりました。

【問14】 もし、あなたのお子さんや、親しい人の結婚しようとしている相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどうされますか。（単一回答）

《設問の主旨》

この設問では、同和問題(部落差別に関する問題)における、婚姻についての忌避意識を確認しました。

《主な特徴》

- 「心配だが、本人の意思を尊重する」との回答が最も多く、約30%の回答率となりました。続いて、「本人の意思を尊重して応援する」が約28%、「わからない」が約17%、「反対するが、本人の意思が強ければ仕方ない」が約13%という結果となりました。
- 性別を基準とした集計結果より男女で比較した場合、「本人の意思を尊重して応援する」という選択肢については男性の回答率が高いことがわかりました。
- 年齢を基準とした集計結果より、「本人の意思を尊重して応援する」については10代から20代の回答率が高いことがわかりました。

【問15】 もし、あなたが家を購入したりマンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区や同じ小学校区内の物件はどのように考えますか。あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。（単一回答）

《設問の主旨》

この設問では、同和問題（部落差別に関する問題）における、住宅選択についての忌避意識を確認しました。

《主な特徴》

- 「いずれにあってもこだわらない」との回答が最も多く、約30%の回答率となりました。続いて、「わからない」が26%、「同和地区の物件だけでなく、同じ小学校区内の物件も避けると思う」および「同和地区の物件は避けるが、同じ小学校区内の物件は避けないと思う」が21%前後という結果となりました。
- 性別を基準とした集計結果より男女で比較した場合、「いずれにあってもこだわらない」という選択肢については男性の回答率が高いことがわかりました。

【問16】 部落差別が存在する事を認めたとうえで、その解消を目的とする法律「部落差別解消推進法」が2016年に施行されました。あなたはこの法律についてどの程度知っていますか。（単一回答）

《設問の主旨》

この設問では、2016年に施行された「部落差別解消推進法」の認知度を確認しました。

《主な特徴》

- 「どんな内容か知っている」、「詳細は知らないがだいたい知っている」、「よくは知らないが言葉は聞いたことはある」を合わせると約40%の回答率となりました。
- 性別を基準とした集計結果より男女で比較した場合、男性の認知度が高いことがわかりました。
- 年齢を基準とした集計結果より、50代以上の認知度が高いことがわかりました。

テーマ7:外国人住民の人権について

【問17】 日本で暮らす外国人住民の人権について、どのようにお考えですか。
(複数回答可)

《設問の主旨》

この設問では、外国人住民に関する様々な人権課題の中で、市民の問題意識が高い事項を確認しました。

《主な特徴》

- 地域社会の受け入れの問題について回答と、「わからない」との回答が多く、30%以上の回答率となりました。他には、就労での不利益や、多言語情報が少ないという問題についても多くの回答がありました。また、前回調査と比較した場合、就労での不利益に対する回答率が約8%高くなりました。
- 性別を基準とした集計結果より男女で比較した場合、地域社会の受け入れの問題や、交流の場不足している問題については、男性の回答率が特に高いことがわかりました。

【問18】 特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動(ヘイトスピーチ)が問題となっています。こうした言動の解消に向けた取組を推進するための法律「ヘイトスピーチ解消法」が2016年に施行されました。あなたはこの法律についてどの程度知っていますか。(単一回答)

《設問の主旨》

この設問では、2016年に施行された「ヘイトスピーチ解消法」の認知度を確認しました。

《主な特徴》

- 「どんな内容か知っている」、「詳細は知らないがだいたい知っている」、「よくは知らないが言葉は聞いたことはる」を合わせると約57%の回答率となりました。
- 年齢を基準とした集計結果より、10代と50代以上の認知度が高いことがわかりました。

テーマ8:エイズ患者・HIV感染者およびハンセン病回復者の人権について

【問19】 エイズ患者・HIV(エイズ・ウイルス)感染者およびハンセン病回復者の人権について、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(複数回答可)

《設問の主旨》

この設問では、エイズ患者・HIV感染者および、ハンセン病回復者に関する様々な人権課題の中で、市民の問題意識が高い事項を確認しました。

《主な特徴》

- 「病気についての理解や認識が十分でない」という回答が最も多く、約65%の回答率となりました。他には、「偏見による情報が流される」や、「差別的な言動を受ける」という問題についても多くの回答がありました。

テーマ9:犯罪被害者及びその家族の人権について

【問20】 犯罪被害者およびその家族の人権について、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(複数回答可)

《設問の主旨》

この設問では、犯罪被害者およびその家族に関する様々な人権課題の中で、市民の問題意識が高い事項を確認しました。

《主な特徴》

- プライバシーの侵害についての回答が最も多く、70%以上の回答率となりました。他にも、周囲からの二次被害の問題や、精神的・経済的負担の問題についても50%以上の回答がありました。
- 性別を基準とした集計結果より男女で比較した場合、相談・支援体制の問題については男性の回答率が高いことがわかりました。

テーマ10: インターネットや SNS を用いた人権侵害について

【問21】 インターネットや、LINE・Facebook 等の SNS を用いた人権侵害について、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。（複数回答可）

《設問の主旨》

この設問では、インターネットや SNS が関連する様々な人権課題の中で、市民の問題意識が高い事項を確認しました。

《主な特徴》

- 人権を侵害する情報が掲載される問題への回答が最も多く、70%近い回答率となりました。他にも、子ども達のいじめの問題や、犯罪を誘発するサイト等の問題について50%以上の回答がありました。また、前回調査と比較した場合、それらの事項について、特に関心が高まっていることがわかりました。
- 年齢を基準とした集計結果より、子ども達のいじめの問題については、10代および、30代から40代の回答率が高いことがわかりました。

テーマ11: 性的マイノリティの人権について

【問22】 国内外問わず、性の多様性について理解を深める活動が拡がりをみせています。あなたは、性の多様性についてどの程度を知っていますか。（単一回答）

《設問の主旨》

この設問では、性の多様性に関する認知度を確認しました。

《主な特徴》

- 「どんな内容か知っている」、「詳細は知らないがだいたい知っている」、「よくは知らないが言葉は聞いたことはある」を合わせると約76%の回答率となりました。

テーマ12: 人権に関する講演会やイベント等への参加について

【問23】 過去3年間に、人権に関する講演会や研修会などに参加したことがあるのは次のうちどれですか。（複数回答可）

【問 23-1】 問23で「1～5」を選ばれた方におうかがいします。参加して、どのような印象や感想をもちましたか。（複数回答可） ※「1～5」は講演会等に参加したことがある人

【問 23-2】 問23で「6」を選ばれた方におうかがいします。あなたが参加しなかった理由を選んでください。（単一回答） ※「6」は講演会等に参加したことがない人

《設問の主旨および主な特徴》

- 【問23】では、講演会等への参加経験についての設問です。「参加したことがない」との回答が最も多く、約80%の回答率となりました。続いて、「職場が実施したもの」が約8%、「学校やPTAが主催したもの」が6%、「国・大阪府・市が主催したもの」約6%という結果となりました。
- 【問 23-1】は、参加した講演会等の印象や感想についての設問です。「人権の大切さがわかった」および、「差別の厳しい現実がわかった」という回答が多く、30%以上の回答率となりました。一方、「今まで聞いた内容と同じ話の繰り返しが多かった」との回答も20%ありました。
- 【問 23-2】は、講演会等に参加しなかった理由についての設問です。「講演会などが開かれているのを知らなかった」という回答が最も多く40%近い回答率となりました。続いて、「関心がない」が約25%、「忙しくて時間的に無理だった」が約18%の回答率となりました。

テーマ13: 人権課題解決のために

【問24】 人権問題について、次の項目の中で最近あなたが、読んだり、見たりしたものがあれば選んでください。(複数回答可)

《設問の主旨》

この設問では、市民の人権問題に関する情報源(講演会等を除く)について確認しました。

《主な特徴》

- 「テレビ・ラジオ番組」と、「新聞・雑誌記事」の回答が多く、30%以上の回答率となりました。続いて、「特になし」が28%、「広報誌(四條畷 LIFE)」が24%、「インターネット上の内容」が17%という結果となりました。
- 年齢を基準とした集計結果より、「インターネット上の内容」という選択肢は、10代から40代の回答率が高いことがわかりました。

【問25】 人権意識を高めるためにはどのような啓発活動が効果的と思いますか。(複数回答可)

《設問の主旨》

この設問では、市民が効果的だと考える啓発活動について確認しました。

《主な特徴》

- 「広報誌・パンフレット・ポスター」との回答が多く、約36%の回答率となりました。続いて、「映画・ビデオ」が約24%、「インターネットや、LINE・Facebook等のSNSの活用」が約23%、「講演会や講義形式の研修会・学習会」が約22%という結果となりました。
- 年齢を基準とした集計結果より、「映画・ビデオ」および「インターネットや、LINE・Facebook等のSNSの活用」という選択肢については、10代から20代の回答率が特に高いことがわかりました。

【問26】 2020年に日本で、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。オリンピック憲章では人権尊重・差別の禁止がうたわれていますが、あなたはこのオリンピック憲章についてどの程度知っていますか。（単一回答）

《設問の主旨》

この設問では、人権尊重や差別の禁止が規定されているオリンピック憲章について、市民の認知度を確認しました。

《主な特徴》

- 「どんな内容か知っている」、「詳細は知らないがだいたい知っている」、「よくは知らないが言葉は聞いたことはある」を合わせると約60%の回答率となりました。

【問27】 人権についてご意見等ありましたら、ご自由に記入してください。

《設問の主旨》

この設問では、市民の人権に関する意見を自由記述で求めました。

《主な特徴》

- この設問には、117人から貴重な意見をいただきました。個人情報も含まれており、詳細についての記載は差し控えますが、主旨は次のような内容でした。

回答の主旨	回答数
人権問題に関する回答者本人の考えや意見	79
行政(市や国等)への意見や要望	22
この調査への意見や感想	11
これまで経験した差別や偏見について	5
合計	117